



<保護者アンケート 前・後期結果を比較して>

令和5年度後期学校評価アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。Microsoft Formsを使ったアンケート形式も定着し、多くの保護者の方から回答をいただきました。前期学校評価アンケートと同じく、本校の特色ある取組や学校と地域・家庭とのつながりに着目した質問にお答えいただきました。どの質問の結果を見ましても、多くの方が選択肢の1・2番（十分～、おおむね～）を選ばれ、本校の取組にご理解をいただいておりのこと、とても嬉しく思います。

質問番号5の「地域とのつながりを重視した学習が展開されていますか。」では、前期より「展開されている」という回答を多くいただきました。これは、2学期以降に行った「地域とのつながり」を意識した「学校行事」や「ステージ行事」、各学年で取り組んだ「総合的な学習の時間（蓮花タイム）」、「生活科」などの活動が充実していたことからお答えいただいたものと受け止めています。

また、質問番号10の「ピア交流活動が本校生徒の成長に効果があるものとなっていますか」では、「ある程度効果がある」の回答が前期より上回っていました。学校行事として、1年間を通して行われる「秀蓮フェスティバル」は、生徒が中心となって企画・運営を行っており、「体育の部」「音楽の部」「文化の部」などの活動においてもピア交流を意識した内容が盛り込まれ、異学年との関わりを楽しみにしているようです。保護者の皆様にもお子たちが活躍する様子を見ていただけるよう参観の機会を設けていますが、これまで「文化の部」はYouTube配信（舞台発表）での視聴としてきました。来年度は、「文化の部」におまかせしても、全校で発表を聞き合う「ポスターセッション」活動（午前）や「舞台発表」（午後）を保護者の皆様に参観していただけるように設定したいと考えております。実際に取組を見られることで、より一層子どもたちは意欲的に活動したり、保護者の皆様には普段の様子や頑張りを実感していただける機会となります。ピア交流活動は、まさに小中一貫義務教育学校の特色ある取組の一つと言え、質問番号9においても、9割の回答で「ある程度効果がある」と答えていただいたこと、今後の励みとし、さらなる発展を目指していきます。

一方で、質問番号6「ミライシード ドリルパーク」の問い合わせでは、前期と比べて「あまり効果がない」の回答に変化がありました。本校は、R5年度より全国学力学習状況調査アンケート結果や学校評価アンケート、その他アンケート結果、全市共通テストの結果から、学習習慣や基礎学力の定着において、課題が多いことがわかっています。その中でも取り分け、知識技能の定着に課題があります。そのため、デジタルドリルの活用においては、それらの課題を克服すると同時に、授業と家庭学習をつなぐツールとして生徒へ配信したり、授業内で意図的に組み込んだりしています。紙ドリルと違い、デジタルドリルのメリットは、何度も反復学習ができることはもちろんのこと、A1が生徒一人ひとりの弱点に寄り添い、適切な学習課題を選定してくれることであると捉えています。紙ドリルと違い、問題を解くための頑張った足跡が可視化しにくいことや、問題に向き合う時間等で「本当に学習できているの？」と心配される声を大切に、我々は学習ログなどを確認し、生徒に寄り添ったアドバイスを心がけていきたいと思っています。

現在、GIGA端末は、なくてはならないものになりつつあります。「文房具のように扱う」ことをコンセプトに、子どもたちと一緒に授業のどのような場面でGIGA端末の機能が使えるかを考えきました。子どもたちが主体的・対話的で深い学びを進める際に、考えを広げる・伝える・深めるための一助としてGIGA端末があり、「ミライシード」だけでなく、「Teams」や「ロイロノート」などの機能を必要な場面で必要な用途を判断して活用する力を身に付けてほしいと思います。

今年度も本校教育に多大なご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございました。令和6年度も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

1. 「確かな学力」の育成について

	年度	実現度(ベーシックステージ)				実現度(チームステージ)				実現度(ビジョンステージ)			
		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
総括考查・単元テストに向けて家庭学習を進めている。	R4(前期)	53%	26%	14%	8%	37%	43%	15%	5%	30%	46%	19%	5%
	R4(後期)	43%	30%	19%	8%	32%	43%	23%	3%	31%	46%	18%	5%
家庭学習は、授業内容と関連付けて行っている。	R5(前期)	59%	28%	9%	4%	30%	47%	16%	7%	25%	47%	20%	9%
	R5(後期)	57%	29%	12%	2%	29%	43%	24%	4%	25%	41%	26%	7%
授業中に、自分の考えを友だちと伝え合っている。 (コミュニケーション力)	R4(前期)	64%	27%	8%	1%	43%	48%	7%	2%	37%	51%	11%	2%
	R4(後期)	57%	36%	5%	3%	46%	46%	9%	0%	37%	50%	11%	2%
	R5(前期)	59%	25%	8%	7%	40%	46%	10%	4%	41%	46%	10%	3%
	R5(後期)	58%	29%	8%	4%	37%	55%	7%	0%	41%	47%	10%	2%
授業中に、友だちといっしょに問題を解決している。 (コミュニケーション力)	R4(前期)	60%	29%	7%	4%	48%	40%	10%	2%	39%	50%	8%	3%
	R4(後期)	48%	37%	12%	3%	39%	52%	9%	1%	30%	56%	12%	2%
	R5(前期)	56%	28%	11%	5%	33%	51%	12%	4%	43%	45%	9%	3%
	R5(後期)	55%	32%	9%	4%	39%	50%	10%	1%	33%	55%	12%	0%
授業中に、自分の考えを説明している。 (発信力)	R4(前期)	51%	26%	17%	6%	27%	33%	32%	7%	15%	40%	38%	8%
	R4(後期)	39%	35%	19%	7%	20%	42%	31%	8%	20%	44%	33%	3%
	R5(前期)	45%	29%	19%	7%	19%	40%	33%	8%	25%	38%	29%	8%
	R5(後期)	44%	29%	17%	10%	24%	39%	32%	6%	23%	40%	30%	7%
授業中に、目的や場面にあわせて自分の考えが伝わるよう に説明している。 (発信力)	R4(前期)	48%	35%	13%	4%	24%	45%	25%	5%	15%	53%	26%	6%
	R4(後期)	39%	40%	17%	4%	20%	47%	31%	3%	21%	53%	22%	4%
	R5(前期)	45%	29%	20%	6%	19%	42%	35%	5%	21%	50%	25%	4%
	R5(後期)	47%	35%	12%	6%	22%	44%	29%	4%	22%	49%	27%	2%

* 「確かな学力」の育成に向けたアンケート項目変更について

R4年度の「総括考查・単元テストに向けて、家庭学習を進めている。」という質問を、R5年度（前期）より「家庭学習は、授業内容と関連付けて行っている。」という質問に変更しました。それは、本校の全国学力学習状況調査アンケート結果や学校評価アンケート、その他アンケート結果、全市共通テストの結果から、学習習慣や基礎学力の定着において、課題が多いことがわかったからです。生徒が、家庭学習を総括考查・単元テストの得点に向けた「課題」として捉えがちであったことや、学校が課す画一的な（一律の）「宿題」ができず悩みを抱え、自分に自信が持てずにいたことから、本校ではこれまでの課題を見直し、**授業と家庭学習を一体的に捉え、生徒一人ひとりが自分で考え、自分で選択し、決定する「家庭学習」へ移行**していきたいと考えました。もちろん、授業と家庭学習を一体的に捉える上で、知識技能の定着を重視する時など、デジタルドリルを課題として出すこともあります。詳細につきましては、『家庭学習のすすめ』をご確認下さい。

○分析

「家庭学習は、授業内容と関連付けて行っている。」という質問において、前期・後期を比較すると、肯定的な回答をする生徒は、全てのステージにおいて多少の増減はあるものの、大きな変化は見られませんでした。また、否定的な意見においては、僅かではあるものの減少傾向にあることがわかります。

これは昨年度より、『生徒が夢中になって授業に参加すること』をねらいとし、日々挑戦してきた成果だと捉えています。従来の授業スタイルとしてイメージされる教師が授業で説明内容や、単元のまとめとして行う課題の解決に向けた手がかり、思わず考えたくなる問い合わせ・学習課題などを動画等で配信し、授業では生徒が、主体的・対話的に学ぶ場面を意図的に設定することや、応用力を身に付ける場面を確保するなどし、生徒の家庭での学習と学校で行う学習がうまくつながり、自立的学習者に向けた第一歩を確実に踏み出しているようにも感じています。

また、授業内における質問に目を向けると、前期・後期で比較すると、学年が上がるに連れて、「よく出来ている」という回答が減り、「大体できている」という回答が増えています。これは、自分たちの学習活動を丁寧にふりかえることができているからだと捉えています。例えば、「コミュニケーション力」を見ると回答を見ると、

生徒は「友達に自分の考えを伝えたり説明したりしている。」という実感はあるものの、「いっしょに問題を解決している。」ことへの課題を感じていることがわかります。これは、授業内における他者との協働的な学びを積極的に取り入れる一方で、課題解決に至らない部分を見つめ、次の課題で解決しようとする態度の表れだと感じています。また、授業者においては、「他者との協働」を通して考える学習問題・課題を見つめ直し、探究的な学習活動に向けた授業改善のきっかけだと捉えています。本校では、今後も授業改善及び家庭学習を頑張る生徒一人ひとりの学びに寄り添い、向き合う時間を大切にしていきたいと考えています。「確かな学力」の育成が、「社会の変化を生き抜く力」の要素の1つとして捉え、生徒の主体性向上、言い換えるのであれば、「生徒の心に火をつける」ことを目指していきたいと考えています。

2. 「豊かな心」の育成について

	年度	実現度(ベーシックステージ)				実現度(チームステージ)				実現度(ビジョンステージ)			
		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ない	出来ていない
楽しく学校生活を送っている。	R5(前期)	78%	17%	3%	2%	65%	27%	6%	2%	63%	35%	1%	1%
	R5(後期)	74%	20%	4%	3%	61%	33%	5%	2%	61%	34%	3%	1%
友だちと協力することを大切にしている。	R5(前期)	82%	14%	3%	1%	65%	28%	6%	2%	61%	34%	3%	1%
	R5(後期)	74%	21%	4%	2%	65%	29%	5%	1%	58%	38%	4%	1%
学校の行事や取組は、小中一貫義務教育学校の特色を生かせていると思う。	R5(前期)	74%	19%	5%	2%	53%	38%	7%	2%	53%	43%	4%	0%
	R5(後期)	70%	25%	4%	2%	55%	35%	7%	3%	55%	39%	6%	1%
他の学年の人とのつながりを大切にしている。 (ピア交流活動など)	R5(前期)	75%	19%	5%	2%	58%	33%	8%	1%	46%	48%	6%	1%
	R5(後期)	69%	26%	4%	0%	50%	40%	8%	2%	49%	43%	7%	1%
自分以外の人を大切にし、それぞれの個性を認めるようにしている。	R5(前期)	73%	23%	3%	1%	52%	42%	5%	1%	56%	43%	1%	0%
	R5(後期)	63%	31%	5%	2%	53%	42%	5%	0%	57%	41%	1%	0%

○分析

前期アンケートと後期アンケートを比べると5つの項目全てで大きな変化はありませんでした。ただ、ベーシックステージとチームステージの「他の学年の人とのつながりを大切にしている。(ピア交流活動など)」の質問に対して、「よく出来ている」という回答が減り、「大体出来ている」の回答が増えています。ピア交流活動自体は後期にもどのステージでも活発に行われています。割合の変化は、生徒が単にピア交流活動をこなしているだけではなく、一つひとつの活動をしっかりとふりかえり、次の活動では「こんなことを意識して活動したい。」「こんな風に関わっていきたい。」などと今後のピア交流活動をよりよいものにしたい、充実させていきたいという生徒のおもいから起こっていると考えられます。9年生がこれまでの学びをふりかえる中で向島秀蓮小中学校がどのような学校か考える時、多くの生徒が「他の学校にはない1~9年生のつながりがある。」と回答しています。生徒自身が自分の学校の魅力としてとらえているピア交流活動を今後も大切にし、今後も積極的に取組を進めていきたいと考えています。

前期のアンケート分析でも触ましたが、楽しく学校生活を送っていると感じている生徒が多い中、そう感じていない生徒も少しいます。

今後も引き続き、生徒一人ひとりの様子をしっかりと見て、生徒の悩みやおもいに寄り添う姿勢を大切にしていきたいと考えています。

3. 「健やかな体」の育成について

	年度	実現度(ベーシックステージ)				実現度(チームステージ)				実現度(ビジョンステージ)			
		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
学年に応じた寝る時間を心掛けている。 (BS:午後9時 TS:午後10時 VS:午後11時)	R5(前期)	45%	22%	14%	18%	30%	21%	30%	18%	19%	20%	27%	34%
	R5(後期)	48%	22%	16%	14%	24%	25%	25%	27%	16%	16%	31%	37%
学校に行く日は、朝7時までに起きている。	R5(前期)	67%	14%	9%	9%	53%	20%	19%	9%	37%	26%	13%	25%
	R5(後期)	67%	18%	10%	6%	45%	22%	19%	13%	35%	27%	14%	24%
毎日必ず、朝ご飯を食べている。	R5(前期)	80%	11%	5%	5%	71%	16%	8%	5%	60%	20%	10%	10%
	R5(後期)	72%	18%	6%	4%	68%	19%	6%	6%	67%	17%	4%	11%
家や学校で意識して体を動かしたり、運動をしたりしている。	R5(前期)	70%	18%	8%	5%	48%	30%	14%	8%	40%	32%	20%	8%
	R5(後期)	71%	19%	6%	4%	45%	30%	18%	7%	33%	32%	24%	11%
家や学校での食事において、自分の体の成長に必要な栄養や分量を取ることができている。	R5(前期)	66%	25%	8%	2%	48%	38%	13%	1%	41%	43%	12%	4%
	R5(後期)	69%	23%	6%	3%	56%	35%	8%	1%	46%	37%	13%	4%

○分析

質問項目「学年に応じた寝る時間を心掛けている。」において、ベーシックステージでは「よく出来ている」の数値が3ポイント上昇しました。これに対し、チームステージ・ビジョンステージでは「よく出来ている」の回答がそれぞれ6ポイント、3ポイント減少していました。適切な睡眠のとり方については、本校の健康課題の1つでもあり、「すいみん教育」を取り組んでいます。昨年の11月末に行った「すいみんに関するアンケート」や「すいみん調査」から睡眠に課題のある生徒に対し、学年担当によるすいみん面談や養護教諭による睡眠相談を行い改善に向けての提案や時には励ましの声掛けをしています。今後も継続して粘り強く生徒たちの課題解決に向けて取り組んでいきます。

また、「家や学校で意識して体を動かしたり、運動したりしている。」の質問では、「よく出来ている」の回答が1ポイント上昇し、チームステージ・ビジョンステージではそれぞれ3ポイント、7ポイント減少していました。2学期には、少しでも運動に親しみを持てるきっかけにという願いを込めて、5年生以上の各クラスにボールを配当しました。早速毎朝楽しそうにボールを使って体を動かしている生徒の姿が多くみられるようになっています。今後もより多くの生徒が運動に親しむきっかけづくりをピア活動や体力向上コーナー等で様々な企画をしていきます。

ビジョンステージでは「毎朝必ず、朝ご飯を食べている」の質問に対する回答が7ポイント上昇していました。生徒会では、朝食キャンペーンの取組を行い、自らがお手本となり朝食をしっかり食べて元気に過ごせるよう、呼びかけをしてきました。生徒たちの健康な体と心の成長を目指して、ご家庭でのご協力も引き続きよろしくお願ひいたします。